

ともろう通信



No.23
2018年9月発行

ともろう
共朗生 — 共に朗らかに生きていきたい！

★ともろう通信は、認定NPO法人男女共同参画こしがやともろうの機関誌です。
事業：①男女共同参画関係施設受託事業②男女共同参画の推進を担う人材養成事業
③情報提供、調査研究事業④自立支援・相談事業⑤子どものための自立支援事業

大阪府北部の地震、西日本豪雨、北海道地震により
被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。



遅ればせながら『苦界浄土 わが水俣病』に出会う

2018年9月に入ってから、50メートルを超える強風を伴う台風の日列島襲来や北海道での震度7の地震と、たて続けに災害に見舞われた。改めて、被害にあわれた方々にお見舞いを申し上げます。

自然の力の前で、近代文明の脆弱さを思い知る日々が続く中で、近代科学が命に対して行ってきたことの残酷さに改めて目覚める風景を見る機会があった。

一つは、久しく訪れていなかった広島へ行くことになり、工事中で一部しか開館していない原爆資料館に身を置いて、無念の塊に触れたこと。もう一つは、読まなくてはと思いつつ、そこに触れることが怖くて遠くから眺めていた石牟礼道子の『苦界浄土』を書店の棚から取り出し、やっとそのページを開いたこと。

『苦界浄土』第一章 椿の海の冒頭部分にある「湯堂湾は、こそばゆいまぶたのようなさざ波の上に、小さな舟や鰯籠などを浮かべていた」という表現に出会い、自分の『苦界浄土』に対する偏見が吹き飛んだ。企業活動の結果として水銀の毒を身に引き受けてしまった人々の言葉にならないもだえを、まさに著者が表現したように、浄瑠璃語りのように私の脳裏に送り込む、その文学表現の不思議に引き込まれた。

自然からの脅威なら、抗うことのむなしさを感じることができるが、近代科学を人が操ることによって生じた脅威は、人が作り出したものだからこそ、どうしてこんな目に遭わなければならないのかと身もだえする。原発事故によって今なお避難民としてさまよい生きる福島の人々もまた、言葉にならない魂の叫びを日々の暮らしの中に沈めているのではないか。

文字や声や映像で発信されるものの影に潜む、形にならないものを感じる感性がほしいと思う。

9月 認定NPO法人男女共同参画こしがやともろう理事 小野由理

東日本大震災を忘れない～七夕フェスタ・オープニングイベント “ともろうテント”

恒例の七夕フェスタ、今年6月30日（土）の北越谷駅西口さくら広場のオープニングイベントで、認定 NPO 法人男女共同参画こしがやともろうは「女性と防災」をテーマにパネルを展示するとともに衛生関係を中心とした防災グッズ・備蓄品等を展示しました。

トイレが大事 越谷市から借りたダンボール組立トイレに高橋市長さん始め多くの方に座っていただきました。「ダンボールで、どの位の体重まで大丈夫なの？」と心配されていた方も、そのしっかりしていることに驚かれていました。



携帯パンツ、生理用品、ビデなど

パネル展示



With You さいたまの講座受講生が作成した
「避難所の運営」パネル



6月18日（月）に起きた大阪府北部の地震の
報道記事

9月1日は防災の日(1923年、関東大震災)。1995年1月阪神淡路大震災。
2004年10月新潟県中越地震。2011年3月東日本大震災。2016年4月熊本地震。
2018年6月大阪府北部の地震、7月西日本豪雨災害、9月北海道地震。

けっして他人事ではないという思いでいっぱいです。

9月 認定NPO法人男女共同参画こしがやともろう 理事 山口洋子

6月から8月の「ゆったりカフェ」

「ゆったりカフェ」は、毎月1回土曜日に「ほっと越谷」で13:30から15:30まで開いています。毎回5名から8名の方が参加しています。みんなでサークルになり、トーキングピースを持つ人がカードや写真を使って話をします。ほかの人たちはその話を聴きます。

6月16日（土）

言葉のカード「希望」「信頼」「仲間」などの二文字のカードから、各自が1枚選び、そのカードをなぜ選んだかについて語り、聴き合いました。

サークル終了後、お喋り・お手玉・折り紙などをして楽しみました。



トーキングサークル

7月28日（土）

台風の余波の悪天候のなか、参加していただきました。

「赤」「黄」「緑」など様々な色カードを用意し、「どんな気持でその色を手にとったのでしょうか」と問いかけ、語り聴き合いました。

お茶の時間に、仕事や人との関わりの話題が出ました。

8月26日（土）

イラストのカードは「ボートに乗っている二人」「とんぼ」「船」「遊園地」などです。テーマは「この暑い夏」「夏に思うこと」で、話をしました。

毎回使うカードは様々ですが、自分のこと、家族のこと、思い出、最近の出来事など話は尽きませんでした。



<今後の予定>

9月22日（土）、10月お休み、
11月24日（土）、12月22日（土）、
1月26日（土）、2月23日（土）、
3月23日（土）

皆さん「ゆったりカフェ」にお越しください。

9月 認定NPO法人男女共同参画こしがやともろう理事 坂本雅子

女性の心とからだのケアサポート事業

平成 30 年度越谷しらこぼと基金助成金事業

この講座は、生きづらさを抱えた女性や自信を失っている女性が、アートセラピーやキャパシター（太極拳やヨガの動き、呼吸法を取り入れた動作）などのセルフケアを体験することで本来の自分の力を取り戻し、失った自信を回復していくことをめざします。また表面化しづらい家族問題を取り上げ、地域のなかでだれも孤立しない支援を考えます。



第 1 回 アートセラピーで自分発見

平成 30 年 11 月 10 日（土）

14 : 00 ~ 16 : 00

場所 越谷市男女共同参画支援センター

対象 女性

定員 20 名

参加費 無料

**絵画や造形などの芸術を通して
心のケアをし、様々な素材を楽しむことで
ストレスを解消することが出来ます。**

指導

クエスト総合研究所



第 2 回 こころとからだのセルフケア

平成 30 年 11 月 17 日（土）

14 : 00 ~ 16 : 00

場所 越谷市男女共同参画支援センター

対象 女性

定員 20 名

参加費 無料

**ストレスやトラウマの軽減に役立つキャパシター
(簡単な体操)の体験を通して、心身の健康を
自分自身で保つ方法を学びます。**

指導

キャパシターインターナショナルジャパン



第3回 講演 信田さよ子さん

「母が重い娘たち～愛情か支配か?～」

平成30年12月9日（日）13:30～15:30

場所 越谷市中央市民会館5階 第4,5,6会議室

対象 どなたでも

定員 80名

参加費 無料

主に母娘問題を取り上げ、女性の生きづらさ、DVや虐待について考えます。

講師 信田 さよ子さん 臨床心理士、原宿カウンセリングセンター所長

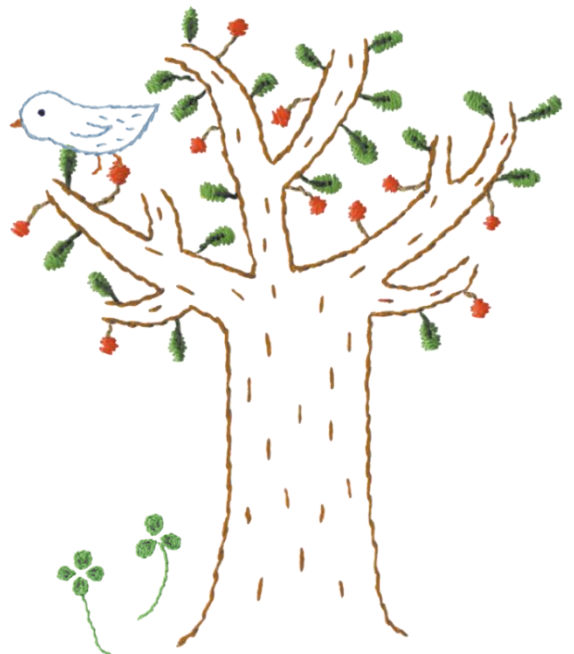
お茶の水女子大学大学院修士課程修了。駒木野病院勤務等を経て1995年原宿カウンセリングセンターを設立。アルコールやギャンブルなどの依存症、摂食障害、ひきこもり、ドメスティックバイオレンス、児童虐待に悩む人たちやその家族、ハラスメントの加害者・被害者などのカウンセリングを行っている。著書に「母が重くてたまらない」「DVと虐待」など多数あり、最新著は「母・娘・祖母が共存する為に」。

3回の講座を通して、ストレスやトラウマを解消し、こころとからだのバランスを保つことで、自己肯定感を高めます。

そして「女性の生きづらさ、DVや虐待」についても学び、誰もが自分らしく生きることをめざします。

みなさまのご参加をお待ちしています。

認定NPO法人男女共同参画こしがやともろう理事
島津美弥子



平成 30 年度男女共同参画推進フォーラム

つなぐ、あらたな明日へ～女性も男性もともに暮らしやすい社会を創る～

9 月 認定 N P O 法人男女共同参画こしがやともろう理事 松岡 年

8 月 30 日（木）から 9 月 1 日（土）まで国立女性教育会館（埼玉県比企郡嵐山町）で開催された男女共同参画推進フォーラムに参加しました。

国立女性教育会館には、20 年位前からたびたび訪れていますが、私にとって貴重な場です。様々な情報を得る場、人との出会いの場です。日本全国から集まってくる方と話すことによって、これからの「ほっと越谷」での男女共同参画事業の方向性や自分自身の生き方などを考えることができました。

私が参加したのは以下の講座等でした。印象深かったものを 4 つご報告いたします。

8 月 30 日（木） 開会 （13：00～13：15）

① 13：15～15：00 シンポジウム

「新しい暮らしのカタチ～働き方×幸福度～」

② 15：30～17：30 ワークショップ 1 会館提供

「男女共同参画の視点から地域課題を掘り起こす～日本女性会議の取組から～」

③ 18：30～20：00 懇親会

④ 20：15～22：00 自主グループによる映画鑑賞「日本を変えた女性たち」と意見交換



パネル展より

8 月 31 日（金）

⑤ 10：00～12：00 ワークショップ 2 N P O 法人 S E A N
「実践報告&プログラム体験 小学生対象デートDV予防『みんな生き生きプログラム』」

⑥ 13：30～15：00 特別講演 講師 国谷裕子さん
「すべての男女が活躍でき、働きやすい社会を創る」

⑦ 15：30～17：30 ワークショップ 3
「講座終了生の出口戦略～グループワークの成果発表&人材バンクとのコラボ事例から～」

特定非営利活動法人男女共同参画フォーラムしずおか

⑧ 19：00～20：40 映画上映「ベアテの贈り物」

9 月 1 日（土）

⑨ 10：00～12：00 ワークショップ 4 公益社団法人ガールスカウト日本連盟

「ガールスカウト提供 少女と女性に対する暴力をなくすための教育プログラム体験」

⑩ 13：30～16：00 多世代ワールドカフェ 200 人会

①のシンポジウムがとにかくおもしろかったです。

シンポジウム 新しい暮らしのカタチ～働き方×幸福度

パネリスト 阿部裕志さん 株式会社巡の環代表取締役

正能^{まゆ}茉優さん 株式会社ハピキラ FACTORY 代表取締役社長、
ソニーモバイルコミュニケーションズ(株) スマートプロダクト担当
慶応義塾大学大学院特任助教

コーディネーター 萩原なつ子さん 立教大学大学院 21 世紀社会デザイン研究科教授、
立教大学社会学部教授

「グローバル化、IT 化など急激に変化していく社会の中で、働き方や個人の価値観も多様化してきている。キャリアに応じた転職、I ターン、U ターン、パラレルキャリア（本業の他に副業・複業をする）を行う人が増え、経済的な指標一辺倒であった『幸福』の捉え方や感じ方も変化している。若い世代を中心に関心が高まりつつある、地域や文化との主体的な関わりや『幸福な生活』に焦点を当て、男女共同参画の視点から新しい暮らしのヒントを探る」という趣旨のシンポジウムでした。

阿部さんは、1978 年生まれ。大学浪人時代にモータースに勉強してストレスで身体をこわし、「こんなに人間は弱いのか」と思い、京都大学工学部在籍中に「生きる力を高めたい」とアウトドア、有機農業、海外に旅に。トヨタ自動車へ就職しましたが、「人と人、人と自然の関係性を見直したい」と 2008 年持続可能な社会をめざす島根県^{あまちやう}海士町に移住して起業しました。海士町は、人口約 2400 人、面積 33.50 km²。資源を活かしたしごとづくり（離島キッチン等）、若者との交流によるまちづくり、教育魅力化によるひとづくりなどに取り組んでいる所で、超少子高齢化の地域で異例の生徒増・学校増・教職員増・部活増、平成 16 年から 27 年の 12 年の間に移住者が 521 人（356 世帯）人口の約 1 割となっているそうです。持続可能な社会のために安心・安全、健康・環境、幸福度、スローな生活をめざしています。新しい生き方には 3 つのバランスが大事で、それは、くらし（人と自然のバランス）、しごと（人と人のバランス：共同体維持のために必要な活動で例えば祭り、農作業、イベント、手伝い）、かせぎ（周りの人が喜ぶ成果をあげながら必要な対価が得られているか）。くらし、しごと、かせぎの 3 つの垣根がなくなるのが大切とのこと。これから世界は、成熟した資本主義に向かっていくと話されました。知識、関係、信頼、評判、共感、文化といった目に見えない資本が大切になるということです。（参考資料として『目に見えない資本主義』田坂広志著が紹介されました。）

正能さんは、1991 年生まれ。小学 6 年生から高校卒業までの 7 年間読売新聞の子ども記者として活動。2012 年「小布施若者会議」を創設。2013 年(株)ハピキラ FACTORY（以下ハピキラという）を創業。2016 年 10 月よりソニー株式会社に転職。起業＋会社員としての働き方をしています。

ハピキラでは付加価値を付けた質の高いモノをつくり、広め、売るということをしています。例えば、長野県小布施町の銘菓「栗鹿の子」をバレンタインギフトにするために、ハートのパッケージにして「かのこっくり」として販売し、都内で 2000 個完売したそうです。

ミレニアル世代（2000 年以降に成人を迎える世代）の理想の生き方は、仕事、趣味、友人、家族、恋愛・結婚などすべてをバランスよくこなし、生きていくことを考え、オンリーワンの「〇〇なのに社長」をめざそうと思われたそうです。「人生配分表（1 週間あたりの時間）：①家族 8%（13.44 時間）、②昔からの友達 5%（8.4 時間）、③今の友達 5%（8.4 時間）、④彼 7%（11.76 時間）、⑤会社員 30%（50.4 時間）、⑥ハピキラ【考える】15%（25.2 時間）、⑦ハピキラ【会う】10%（16.8 時間）、⑧寝る・移動・自分 20%（33.6 時間）の発想がとても新鮮でした。

好きなものを好きなだけ食べるビュッフェにちなんで、理想の生き方は、好きな仕事を好きなバランスで行うビュッフェキャリアだと話されていました。

そんなふたりでも時々、「やりたくてやっているのにこれでいいのかな」と思うことがあるそうです。そういう時には、阿部さんは、「ねばならない」という思い込みを手放すこと、人との関係を大切にすることで、迷いはなくなるということです。正能さんは、「悲観は気分、楽観は意思」という言葉を大切にしている、「意思をもって、前に転びに行く生き方」をしたいということです。ふたりは、「思っていること、やっていることが一致しているのが、カッコいい大人ではないか」と話されていました。正能さんは、「人と分かり合えるように説明する努力は、し続ける必要がある」と強調されていました。

コーディネーターは、働き方のキーワードを「自由になる時間」、「人との関係性」、「いくつもの顔」で展開し、最後は以下のようにまとめました。「社会保障制度、昭和の価値観（終身雇用、年功序列等）の見直しが必要ではないか。男女とも意思を大切にする働き方がある。ひとつのものさしではなく、違うものさしで見るのが大事。多様なものさしをもって生きていこう」

このシンポジウムで、働き方は、自分が思うように作っていけばよいのかなという気持ちになりました。私自身の昭和の価値観よ、サヨナラ。

次にお伝えしたいのは④の「日本を変えた女性たち」の映画鑑賞です。

初めてこの DVD を見ることができました。



映画のチラシ

広岡浅子（挑戦し続けた女性実業家）、津田梅子（女性の可能性を世界に広げた教育者）、吉岡彌生（女性医師の道を開拓した先駆者）、市川房枝（女性の権利を求め闘った政治家）、猿橋勝子（女性科学者のパイオニア）の 5 人の人生をいずれも 20 分位で紹介している DVD でした。どの方も、あきらめずに前進する様子に感動しました。

現在の私たちの生活があるのは、このような女性がいてくれたからです。参加者は 10 人位でしたが、「私たちもまだまだ頑張っていけないといけないね～」という声がありました。私も、「日本を変えた女性たち」のような大きなことはできませんが、身近な周りの人に、私ができることをして、次の世代の方々によりよい形でバトンを渡していきたいものだと思います。



パネル展より



【お知らせ】

「ほっと越谷」の 10 月は、講座が盛りだくさんです。その一部をご案内します。

男女共同参画セミナー 家族ってなあに？～「家族」から「かぞく」へ～

- ・ 10/6（土）「家族」という呪縛—社会が強いる規範 講師：杉山 春さん（ルポライター）
- ・ 10/28（日）新しい「かぞく」のカタチを求めて 講師：永田夏来さん（兵庫教育大学講師）

上映会「沈没家族」10/13（土）

いずれも 14 時～16 時です。ぜひご参加ください。

次は、⑤のワークショップ 2

「実践報告&プログラム体験 小学生対象デートDV予防『みんな生き生きプログラム』です。

実践報告&プログラム体験小学生対象デートDV予防みんな生き生きプログラム

特定非営利活動法人SEAN

内容は以下のようなものでした。

私たちには、幸せに生きる権利があります。からだ（感覚）、こころ（気持ち）を傷つけるのが暴力で、暴力は人権侵害です。権利には「生きる、幸せになる、選ぶ」などがあります。学校に行くのも権利です。自分にも相手にも権利があります。子どもの権利条約（命、成長、守られる、参加）もあります。

「男の子は、強く、泣かない、怖がらない」から、人をやっつけて強くなろうとなっていないかな？「女の子は、女子力を高めて笑顔で気配り」から、嫌われたくないから断れない。なんでも言うことをきくことが優しさだと思っていないかな？ と問いかけます。

気持ちは大切なメッセージで、良い悪いはありません。気持ちは変化します。本当の気持ちにふたをすると、どこかにその気持ちをぶつけたくなったり、言えなかった自分を責めてしまう場合もあります。自分の本当の気持ちを伝えて、相手がおこったら、それは仲良しではありません。自分のこころとからだを守るために考えを声に出したり、時には自分で選んで黙ったりして、互いを思いやるのが大切です。人は弱い生き物。本当の強さとは、弱さを受け入れてそれを言葉で言えることではない？ 伝えられた方も信用された感じになるのではない？ 自分の気持ちを伝えて、それを受け入れずおこったりされたら、「助けて」ということや「逃げる」ことが大事。最初に相談した人がだめだったら、次の人に相談して。必ず助けてくれる人がいるから。

強い、優しいとはどういうこと？ 優しさとは、自分にも相手にも優しくすることで、互いの違いを尊重しあい、人が困っていたら、助けるということではない？

「女性には優しくしなさい」などということが、かえって女性嫌悪を生むのではないかと話されていました。男や女である前に自分が自分として、強く優しく生きていくということが、人間関係の基本ではないかということを伝えていました。

私が高校でのデートDV防止教育に携わるようになったのは 2005 年です。その頃にやはり国立女性教育会館の研修でこの団体に出会って、人権やジェンダーを的確に伝えていると感動しました。約 10 年ぶりに団体の小学生対象のプログラムを体験して、あらためて、小さな頃からのジェンダー教育と人との関係づくりの基本を伝える重要性を感じました。デートDVだけではなく、友達や家族などさまざまな関係づくりに役立つこのような学習の場があると、いじめなども少なくなるのではないかと思います。

最後に、⑨のワークショップ 4

「ガールスカウト提供 少女と女性に対する暴力をなくすための教育プログラム体験」です。

講座でいただいたシール



ガールスカウト提供 少女と女性に対する暴力をなくすための教育プログラム体験

公益社団法人ガールスカウト日本連盟

ガールスカウトが、少女と女性に対する暴力をなくすための教育プログラムを開発したことは知っていましたが、なかなか実際に体験する機会がなかったので、今回、楽しみにしていました。3つのワーク＝中高校生用「危険信号」、小学校高学年用「おもちゃの話」、小学校低学年用「大丈夫？」を体験しました。

3つのワーク

1 中高生用「危険信号」

話を聞いてくれない、スマホでのやりとり、束縛などのさまざまなシーンと言葉が添えられた絵を見て、それは、安全な関係なのか、危険な関係なのかを参加者で話し合いながら決めていくものでした。

2 小学校高学年用「おもちゃの話」

サッカーボール、人形、ミニカー、ブロックなどさまざまなおもちゃの絵を見て、「男の子のおもちゃ、女の子用おもちゃって何？」と参加者で話し合います。ジェンダー（社会的性別）に気づき、男だから女だからではなく、「自分らしく」を大切にしようということを学ぶものでした。

3 小学校低学年用「大丈夫？」

「嬉しい」「悲しい」「怒り」「悔しい」「喜び」などの顔のイラストを見て、どんな気持ちなのかを参加者で話します。気持ちはいろいろあり、まず自分の気持ちに気づき、その気持ちを自分でコントロールする大切さを学ぶものでした。皆で輪になって軽快な音楽に合わせて「怒る」「悲しい」「嬉しい」「イライラ」など体全体で表現するワークは、子どもの頃に戻ったようで、楽しかったです。

いずれも参加者のひとりひとりの考えを聞きながら、お互いに意見交換する楽しさがありました。

このようなワークをたくさん子どもたちに広めていきたいと思いました。

こしがやともろうからのお知らせ



今年、特定非営利活動法人男女共同参画こしがやともろうは
10周年を迎えます。

これもひとえに皆様の御理解、御支援の賜物と感謝申し上げます。

12月9日(日)午前に越谷市中央市民会館で記念式典を行います。

詳しくは後日お知らせさせていただきます。



★正・賛助会員になって活動を支えてください！

正会員	年額	10,000 円
賛助会員	年額	一〇 2,000 円

郵便振替口座 00120-1-447817
加入者名 NPO 法人男女共同参画 こしがやともろう

●寄附のみも受け付けております
男女共同参画こしがやともろうは認定NPO法人です
ご寄附は税金の控除を受けることができます

☎ 問合せ・申込先

認定特定非営利活動法人男女共同参画こしがやともろう
〒343-0026 埼玉県越谷市北越谷2丁目21番8号
電話 080-3246-3540
Eメール tomorou@hot-koshigaya.jp